原っ子

学校だより №23（通算66号）
令和５年９月１５日
小郡市立大原小学校
校長　山本貴澄　Tel 72-5500

今年度の重点目標「学び合い 助け合い やり遂げる集団づくり」
合言葉「チャレンジ！ みんなでまなぶ やりとげる」

９月も半ばとなりました。日中はまだ酷暑ですが、朝晩はようやく涼しさを感じられるようにもなりました。少しずつ小さな秋の訪れを感じています。
先日の日曜日に大原中学校の体育大会を参観しました。卒業生の子たちが力を合わせて生き生きと演技する姿、後輩たちをリードする頼もしい姿に感動と元気をもらいました。子どもたちの成長が見られるとお家の方も教師も本当にうれしいものですね。

人権学習参観・学級分会へのご出席 ありがとうございました

９月７日（木）に人権学習参観と学級分会を実施しました。ご出席ありがとうございました。１年生では互いの気持ちや考えを大切にする、６年生では室町時代の龍安寺の石庭造りに携わった人々から差別の問題について考えるなど、段階を踏んだ人権学習を行いました。学級分会では各学年でテーマを決めて人権問題について話し合いました。司会の学級委員さんにはお世話をおかけしました。アンケートへのご協力もありがとうございました。参加してよかったという感想を多くいただきました。子どもたちとともに私たちの人権感覚もさらに高め、誰もが幸せに生きられる社会を築いていきたいと思います。

◇子どもの感想等

１年生	わたし だいすき はっけん

（たのしかったこと・がんばったこと・うれしかったこと）
・どきどきした。うれしかった。ともだちのシャツがきれいだった。
・わたしはさいしょどきどきしてたけど、ともだちがはっきりいってたから大きなこえでいえました。みんな大きなこえでいえました。

□昔、ランドセルの色は赤か黒しかありませんでした。私が小学校に通っていた頃は、女の子は赤、男の子は黒のランドセルでした。私もそれが当たり前のように思っていました。でも今は、好きな色を自由に選んでいい時代に変わってきました。多様性が尊重され、互いを認め自分らしく生きる意識を高めるよい機会となった学習でした。

２年生	いい ところ みいつけた

（もらったカードを読んで思ったこと）
・わたしは、びっくりしました。どうしてかというとグループで三人の人からもらったからです。もっといいところがあるようにしていきたいです♥
・みんなからいいところをもらってめちゃくちゃうれしかったです。
（今日の学習で）
・わたしは、もっといいところを書いたりふやしたいです。じぶんで書いてたことはいっぱいだったけど、もらった手がみは書いたのとぜんぜんちがうところだらけでびっくりしました。こんどはわたしがあげたいです。
・わたしはいいところを言ってくれてうれしかったので、わたしもみんなのいいところを見つけて人をうれしい気もちにできたらいいなと思いました。

□「自分にはいいところがないと思っていました。」と感想に書いている子が多いことに驚きました。あまり周りの人からほめてもらった経験がないのでしょうか？自分のよさを知り自信をつけていくことで、相手のことも認め、やさしく接していくことができそうです。普段から自分や友だちのよさに気づき、助け合うことのできる集団づくりを目指していきたいです。

３年生	自分はどんな気持ち？

・いやな気持ちがあったらおちついて聞く。（ポイント）しんこきゅうをする。いいことを考える。

・ぼくは、自分の気持ちのつたえ方は、れいせいにつたえることが大切だということが分かりました。自分がいやだと思うことをされたときにぼう力をふるとけんかになるからやめようと思いました。これからは、何かいやなことやしてはいけないことをれいせいにつたえたり、自分の気もちをれいせいにつたえたいです。
・今までは、「やめて」や何も言わないときがあったけれど、これからは何でしたかや理由を言って相手につたわるように話したいです。（理由などを話すときはやさしく）

□相手から何かいやなことや気になることをされたとき、上手に自分の気持ちを伝える言い方について考えました。これは、子どもたちが学校や社会の中でいろいろな人と円滑にコミュニケーションをしていく上で大切な力です。日頃から、こんな言い方だと相手は傷つくかな、どう言えば相手に分かってもらえるかな、相手にいやな思いをさせていないかななど、自分に問いながら考えられると、相手に対して思いやりのある行動ができて信頼されるのではないかと思います。

４年生	わたしのせいじゃない

・もしかしたら、今までけんかがおきたときに助けをもとめられていたのかもしれない。見ててこわくて何も言えずにいて、助けをもとめられていても気づかなかったかもしれない。でも、今日の学習をしてけんかがおきていたら止める。そうじゃないといじめられている人がどんどんきずついていっているかもしれない。自分がこわくてもゆう気をだして止めないといけないことをあらためて思いました。人の思いがきずついていないかよく考えて生活していこうと思いました。

□この子は今までの自分を振り返って感想を書いています。自分がしている行動がどうなのか、どう思われているのかと、自分のことを客観的に見つめ改めていける力をつけていきたいと思いました。見て見ぬふりは私にもあり、後で反省することも度々です。困っている人や悲しんでいる人に敏感に気づき、助けてあげられる人でありたいと思います。

５年生	ありのままの自分

・同性を好きになるなど、男性だけど心が女性みたいな人を許せる自分になりたいと思いました。わけは、世の中には今日勉強したような人がたくさんいて、自分が「同性を好きになるなんてありえない」みたいなことをもし言ってその人をきずつけるかもしれないし、相手から本当のことを言われたとき、その人を認められる人になりたいと思いました。
・自分を大切にできる自分になりたいです。理由は、自分の悩みに対して自分を責めたりすると、もっとつらくなるし、自分で自分をきずつけてしまうからです。

□性の多様性の問題が社会で大きく取り上げられるようになっています。学校でもこの問題について理解を深め、全ての子どもたちが安心して通うことができる学校づくりを推進するために職員研修の機会をもちました。性的マイノリティとされる子どもへの支援は当然必要であり、性自認・性的指向については周囲に打ち明けられないことが多いです。また、周囲から刷り込まれた偏見や決めつけのために「性的マイノリティは異常」「からかいの対象」と思っている子もいるかもしれません。そのため、今回初めて５年生で **LGBTQ** の問題についての人権学習を行いました。性の問題だけでなく人権に関わる様々な多様性について寛容に認め合い助け合える子どもたちであってほしいと思います。

６年生	「室町文化と力をつける人々」～龍安寺の石庭～

・周りの人から差別を受けていた人が世界文化遺産となる庭をつくるのはすごいと思ったけど、差別されるのはやっぱりおかしいと思いました。
・周りの人から差別をされていた人がこの石に名前をほった時、いろんな思いや願いでほったんだろうなと思いました。
・この石庭の話を聞いてびっくりしました。この石庭はとても美しく、春夏秋冬のときはもっときれいだなと思いました。２つのなぞでは、何かを伝えたかったのかなと思いました。

□京都市の龍安寺の石庭から中世の差別の歴史について学びました。庭の美しさとともに、置かれている石の裏には、この庭を造り出し被差別の中を生き抜いてきた二人の「庭づくり師」の名前が刻まれています。教科書では、「こうした庭園づくりには、当時厳しい差別を受けていた人々がもっていたすぐれた技術が生かされています」と記述されています。庭造りだけでなく、能などの芸能、竹や革の工芸品など、これらの人々によって完成され、継承されてきたものが多くあります。差別の中を生き抜いた人々が果たしてきた役割を学び、これからの部落問題学習につなげていきます。